授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	栄養学	担当講師	和田優・足立貞子
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
　生命維持、健全な生命活動、発育・成長に欠かせない栄養素の働きについて理解し、さらには食習慣が誘因となって発症する生活習慣病の予防や、傷病者・高齢者に見られる低栄養障害の課題、現代の多様な栄養の補給法、各種の食事療法を学ぶ。一方、食習慣は地域経済や文化的背景に大きな影響を受けるものである。地域特性を吟味した食の援助につなげるために、地域の食文化に根差す健康の維持と課題についても学ぶ内容とした。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 栄養学の歴史と医療制度との関係が理解できる	1) 栄養学の歴史 2) 保健・医療における栄養学	(1) 栄養学の歴史 (2) 食物栄養学から人間栄養学へ (1) 食事療法の進歩と医療制度 (2) 看護と栄養 (3) ﾁｰﾑ医療に・地域医療における栄養ｹｱ	講義
	2. 栄養素の種類と働きが理解できる	1) 栄養素の種類	(1) 栄養素の種類と働き （糖質・脂質・ﾀﾝﾊﾟｸ質・ﾋﾞﾀﾐﾝ・ﾐﾈﾗﾙ・食物繊維・水）	講義
2	3. 栄養素の消化吸収が理解できる	1) 栄養素の消化吸収	(1) 食物の消化 (2) 栄養素の吸収 (3) 栄養素の体内運搬	講義
	4. ｴﾈﾙｷﾞｰ代謝が理解できる	1) ｴﾈﾙｷﾞｰ代謝	(1) 食品の栄養 (2) 体内のｴﾈﾙｷﾞｰ (3) ｴﾈﾙｷﾞｰ消費 基礎代謝、安静時代謝、睡眠時代謝、活動代謝	
2	5. 食事と食品が理解できる	1) 人間の食事と食文化 2) 日本人の食事摂取基準 3) 食品と栄養素	(1) 人間の食事 (2) 食文化 (1) 日本人の食事摂取基準とは (2) 策定方針 (3) 設定指標 (4) 主な栄養素の食事摂取基準値 (1) 穀類、イモ類とデンプン、マメ類、野菜類、他 (2) 嗜好飲料、調味料と香辛料 (3) 保健機能食品、特別用途食品	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
2	6. 健康づくりと食生活が理解できる	1) 食生活の変遷と生活習慣病	(1) 食生活の変遷と栄養問題 (2) 生活習慣病の予防 (3) 食生活の改善への施策 (4) 食の安全性と表示	講義
2	7. 栄養ｹｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄが理解できる	栄養ｹｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	(1) 栄養ｹｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ (2) 栄養ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞとｱｾｽﾒﾝﾄ (3) 栄養ｹｱ計画 (4) 栄養ｹｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの評価	
2	8. 栄養状態の評価・	栄養ｱｾｽﾒﾝﾄ	(1) 栄養ｱｾｽﾒﾝﾄ	

	判定が理解できる		(2) 栄養状態の評価・判定法 基礎、臨床検査、身体計測	
2	9. ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞと栄養の特徴が理解できる	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞと栄養	(1) 乳児期・乳児期の栄養ｹｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ (2) 学童期・思春期・青年期の栄養ｹｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ (3) 成人期の栄養ｹｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ (4) 妊娠期・授乳期・更年期の栄養 (5) 老年期の栄養ｹｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 一般食の種類と意義	
2	10. 病院食の種類と意義が理解できる	1) 病院食と意義	(1) NST	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
6	11. 代表的な栄養食事療法が理解できる	1) 循環器疾患患者の栄養食事療法 2) 消化器疾患患者の栄養食事療法 3) 腎疾患患者の栄養食事療法 4) 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 5) 嚥下障害患者の食事	(1) 高血圧症・心不全・動脈硬化と食事 (2) ケア上の注意 (1) 消化器の炎症と潰瘍と食事 (2) 下痢・便秘と食事 (3) 肝臓疾患・膵臓疾患と食事 (4) ケア上の注意 (1) 腎疾患と食事 (2) ケア上の注意 (1) 肥満・糖尿病・脂質異常と食事 (2) 高尿酸血症と痛風と食事 (3) ケア上の注意 (1) 摂食・嚥下障害と食事 (2) ケア上の注意	
4	12. 治療食の実際を体験し看護の役割が理解できる	1) 治療食の調理実習	(1) 治療食の実際を体験 （腎臓食・糖尿病食） (2) 食事の工夫を考える (3) 対象の思いを考える	調理演習
2	13. 地域の食文化に根差す健康課題が理解できる	1) 地域の「食」の特徴 2) 地域の「食」の課題	(1) 但馬地域、養父市の食文化 －食生活・調理法嗜好品等 (2) 但馬地域、養父市の食の課題 －食習慣・栄養摂取に関連する、健康課題	
2	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能③栄養学　医学書院 系統看護学講座　別巻　栄養食事療法　医学書院
参考文献	糖尿病食事療法のための食品交換表　第７版　日本糖尿病協会　文光堂 腎臓病食品交換表　治療食の基準　第９版　医歯薬出版株式会社 ナーシング・グラフィカ②　臨床生化学　人体の構造と機能　メディカ出版 菱沼典子著　第４版　看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	リハビリテーション論	担当講師	吉田　一正
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい

本科目は、機能障害から生活を再構築するための日常生活行動や動作のしくみ・運動療法が理解できることをねらう。特に「地域・家庭に帰る」援助につなげるために、身体・心理・社会的な健康回復と健康の保持ができることを含めた内容を学ぶものとする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
4	1. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの概念が理解できる	1) ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの定義と理念	(1) ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの定義 (2) ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの歴史 (3) ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝを必要とする人	講義
		2) ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの対象と制度	(1) 障害者の定義 身体障害者の状況 (2)障害者を支えるおもな制度	
		3) 疾病・障害・生活機能の分類	(1) 国際疾病分類（ICD） (2) 国際障害分類（ICIDH） (3) 国際生活機能分類（ICF）	
		4) ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの分野	(1) 医学的ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ (2) 教育的ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ (3) 職業的ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ (4) 社会的ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	
4	2. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医療の役割について理解できる 3. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝﾁｰﾑにおける看護師の役割が理解できる 4. ﾁｰﾑｱﾌﾟﾛｰﾁのための情報共有について理解できる	5) ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医療の提供	(1) 経過別にみるﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ (2) 連携職種 (3)他職種連携の在り方	講義
6	5. 機能障害のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝプログラムが	6)機能障害とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	(1)運動器系の障害とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ (2)中枢神経の障害とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ (3)呼吸器・循環器系の障害とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ (4)感覚器系の障害とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	講義 演習
1	試験			

テキスト	系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院
参考文献	落合慈之監修　リハビリテーションビジュアルブック　学研メディカル秀潤社 菱沼典子著　第 4 版　看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	公衆衛生学	担当講師	朝来市健康福祉事務所 養父市保健師 （吉田由佳、小谷純子）
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい

公衆衛生は社会福祉、社会保障と共に社会として生存権を確保する体系的なしくみであり、すべての人々を対象に、地域社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延ばし、健康と活力を増進するための科学と技術である。健康や生活の質を広く人々や人々が生活する地域、職域、学校、さらには社会全体の枠組みの中で考えることは、より根本的でより多くの人に影響を及ぼすことのできる働きかけを可能にし、個々の健康上のリスクの軽減、つまり予防活動の実践へとつながる。

このような考え方を基に、本科目では環境・社会と人間の健康との相互関係、及び社会全体の健康問題について学ぶことをねらいとする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 公衆衛生の概念を理解する	1) 公衆衛生の概念 2) 日本における公衆衛生	(1) 公衆衛生とは何か (2) 世界の公衆衛生の歴史 (1) 公衆衛生の発展 ﾌﾟﾗｲﾏﾘﾍﾙｽｹｱ、ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ	講義
2	2. 公衆衛生のしくみを理解する	1) 公衆衛生の場での疫学	(1) 疾患の発生状況 ・有病率 ・罹患率 (2) 健康状態や医療水準 ・平均寿命、平均余命、健康寿命 ・死亡率、死因 (3) 人口問題と人口動態統計 (4) 原因と疫学的因果関係と対策	講義
2	3. 公衆衛生における生活環境と問題への対策を理解する	1) 地球規模の環境と健康 2) 身の回りの環境と健康	(1) 地球温暖化、オゾン層の破壊 (2) 水質汚濁 (3) 大気汚染 (4) 土壌汚染、放射性物質 (1) 室内環境 (2) 食品管理、家庭用品の安全対策 (3) ごみ・廃棄物問題	講義
2	4. 集団の健康を捉るための手法を理解する	1) 国、都道府県、市町村の役割	(1) 法律と政策・施策・事業 (2) 国と地方自治体の役割 ・保健所 ・市町村保健センター (3) 専門職の働き (4) 学校保健法に基づく役割 (5)難病対策	講義
2		2) 精神保健	(1) 精神保健活動の理念 (2) 精神障害者の医療	講義

4	5. 公衆衛生における感染症と対策を理解する	1）感染症対策	(3) 自殺と自殺予防対策 (1) 感染症法とその予防対策 (2) 院内感染とその予防対策 (3) 公衆衛生上の重要な感染症とその対策	
	6. 地域保健活動の実際について理解する	2）（但馬：養父市）地域における保健活動	(1) 養父市における ①母子保健活動 ②成人保健、生活習慣病予防 ③高齢者保健 ④歯科保健	講義
1	試験			
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度②　公衆衛生　医学書院 厚生の指標　増刊　国民衛生の動向　厚生労働統計協会 看護六法　新日本法規			
参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度④　看護関係法令　医学書院 川野雅資監修　看護学実践　science of nursing			
評価方法	筆記試験			

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	健康支援と保健活動	担当講師	井上　清美
実施年次	２年次	単位数	１単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい

社会の変化とともに、地域包括ケアが重視されるようになり、看護の場も地域へと広がっている。実践領域である行政看護、産業看護、学校看護、在宅看護の各専門領域と、その基盤となる看護が提供される場としての「地域」を基軸に、保健師助産師看護師に共通する学問として位置づけられている。今後ますます、看護師の活躍の場は、地域に拡大・シフトしていくことが予測され、訪問看護のみならず、地域に看護の拠点をつくること、予防的に居宅日本問することを含めて、地域における看護師の活躍への期待は大きい。この科目は、国民の QOL の高い生活を支え、安心で安全な地域社会の構築に寄与することを明確にした。これは、日本社会における保健医療福祉の動向に対応したものである。日本は超高齢社会に突入し、増大する高齢者のケアの体制整備と質の確保は大きな社会問題であり、ケア職である看護への役割期待はますます大きくなっている。さらに医療制度改革により地域医療・在宅医療の推進および地域包括ケアシステムの構築が求められるようになり、地域看護の果たす機能の重要性が増している。これらの社会的要請にこたえる実践活動を支え、発展させ、地域看護の素養を持つ人材を養成する事に寄与していく。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 地域保健活動の理念と仕組みを理解する。	1) 地域保健活動「地域看護」の目指すもの	(1) 保健活動/公衆衛生の原点 ①「地域看護」の構成 ②地域看護の場「地域」 ③地域看護の専門職能 保健師 ④保健師の技術「保健指導」	講義
2		2) WHO・ﾌﾟﾗｲﾏﾘｰﾍﾙｽｹｱ・ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ	(1) WHO 憲章 (2) ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝの定義 (3) 日本国憲法、健康日本 21 (4) 健康増進法	
2	2. 地域を対象とする公衆衛生看護活動（保健活動）の主要な概念について、地域の看護職である保健師の活動から理解する。	1) 地域保健活動の構造と展開 2) 健康危機管理	(1) 地域看護と保健師 ①地域看護と地域の関係 (2) 地域看護の目指すもの (3) 地域看護の場「地域」とは (4) 地域看護の専門職「保健師」 (1) 国ﾚﾍﾞﾙ、地域における健康危機管理体制 (2) 国際保健規則 (3) 東日本大震災等の災害対策	講義
2	3. 現代の社会環境の特徴、人々の健康のとらえ方、直面する健康課題について検討し、今後の地域保健活動の方向性を理解する。	1) 産業保健活動	(1) 産業保健とは －労働安全衛生法 (2) 労働者の健康問題 (3) 労働衛生管理体制 ①安全衛生管理の組織 ②作業環境管理 ③職場における健康管理・職業病の予防	講義

2 2 1	4. 看護職が住民や関係者・関係機関とともに協働し、健康づくり、地域づくりに参加することの重要性を理解する。 試験	1) ｿｰｼｬﾙｷｬﾋﾟﾀﾙ 2) 目指す地域包括ケアと保健活動	(1) ｿｰｼｬﾙｷｬﾋﾟﾀﾙとは ①ｿｰｼｬﾙｷｬﾋﾟﾀﾙの三要素 ②ｿｰｼｬﾙｷｬﾋﾟﾀﾙの類型、形態 ③社会的交流 (1) 兵庫県地域医療構想	講義
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度⑵ 公衆衛生　医学書院 厚生の指標 増刊　国民衛生の動向　厚生労働統計協会			
参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度⑶ 社会福祉　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度⑷ 看護関係法令　医学書院 看護六法　新日本法規 新体系　看護学全書　健康支援と社会保障制度① 現代医療論　メヂカルフレンド社			
評価方法	筆記試験			

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	社会福祉	担当講師	井土睦雄
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい
　社会保障・社会福祉制度や政策について学び、医療と福祉の連携ついて理解する。そして、看護専門職として、医療サービス利用者への看護を通じて、社会福祉関係支援者と共に、チームアプローチができる人材を育成する。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 現代社会における社会福祉・社会保障の意義を理解する。	1) 現代社会と社会福祉の理念 2) 社会福祉の法律と行政	(1) 社会保障・社会福祉とは何か (2) 社会保障・社会福祉の動向 (1)社会福祉の法律に基づく行政の役割	講義
2	2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向が理解できる	1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉の動向	(1) 個人、家族、地域社会と人口、経済、雇用等の変化の連動性 (1) 社会保障制度、保健医療、社会福祉の動向	講義
2	3. 医療保障制度について理解できる	1) 医療保障制度の構造と体系	(1) 医療保険の目的と内容、役割	講義
2	4. 介護保障制度について理解できる	2) 介護保障制度の構造と体系	(1) 介護保険の目的と内容、役割	講義
2	5. 所得保障と公的扶助について理解できる	1) 所得保障、公的扶助制度の構造と体系 2) 生活保護、低所得対策	(1) 所得保障（年金、雇用、労災、社会手当）制度の目的と内容、役割 (1) 生活保護制度の目的、内容、役割 (2) 低所得者対策の意義と内容、役割	講義
2	6. 社会福祉分野とサービスが理解できる	1) 高齢者、障害者、児童福祉制度と支援	(1) 高齢者、障害者、児童の福祉制度内容と役割	講義
2	7. 社会福祉実践と医療・看護の連携について理会できる	1) 社会福祉援助 2) 医療・看護の連携	(1) 社会福祉援助と医療の関係性 (1) 社会福祉実践と医療・看護が地域で連携し、果たす役割 (2)看護職の社会的役割と責任	講義
1	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度(3)　社会福祉　医学書院
参考文献	井村圭壮他　社会福祉の制度と課題　学文社
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	関係法規	担当講師	星　雅丈
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい

法律は私たちの日常生活そのものであり、法から守られ、法を守っている。看護としての任務を果たすためにはわが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解し、社会において看護職がどのような役割を受け持っているかを正しく認識する必要がある。看護をはじめ医療は人間の生命に直接関係するだけに、そこに携わる人々の資格や業務内容が法律で厳格に規定されている。看護に携わる者が国民の健康を守り与えられた職責を正しく遂行するためには看護関係法令の理解が必要である。本科目では、社会における法、人権について、及び医療・福祉分野に関連する法について理解することをねらう。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 社会における法の概念を理解する	1) 法の概念	(1) 法とは (2) 法の種類 (3) 衛生法の分類と主な法律 (4) 厚生行政のしくみ	講義
6	2. 医療機関と関係法令、および医療従事者の職務の機能と役割を理解する	2) 医事法	(1) 医師法 (2) 医療法 (3) 健康保険法、介護保険法 (4) 診療放射線技師法 (5) 臨床検査技師等に関する法律 (6) 理学療法士および作業療法士法 (7) 言語聴覚士法 (8) 救命救急士法 (9) 歯科医士法、歯科衛生士法 (10)医療を支える法	講義
2	3. 福祉分野に従事する職務の機能と役割を理解する	3) 福祉法	(1) 社会福祉法 (2) 生活保護法 (3) 社会福祉士および介護福祉士法	講義
2	4. 薬務法の概要と法令の目的・定義を理解する	4) 薬務法	(1) 薬剤師法 (2) 薬機法 ① 薬局の種類と機能 ② 医薬品等の取り扱い	講義
2	5. 環境保全の必要性と基本理念が理解でき看護との関連を考える	5) 環境法	(1) 環境基本法 (2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	講義
1	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度⑷　看護関係法令　医学書院
参考文献	川野雅資監修　看護学実践　science of nursing　地域看護学　ピラールプレス 系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度⑶　社会福祉　医学書院 系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　医学書院 看護六法　新日本法規
評価方法	筆記試験